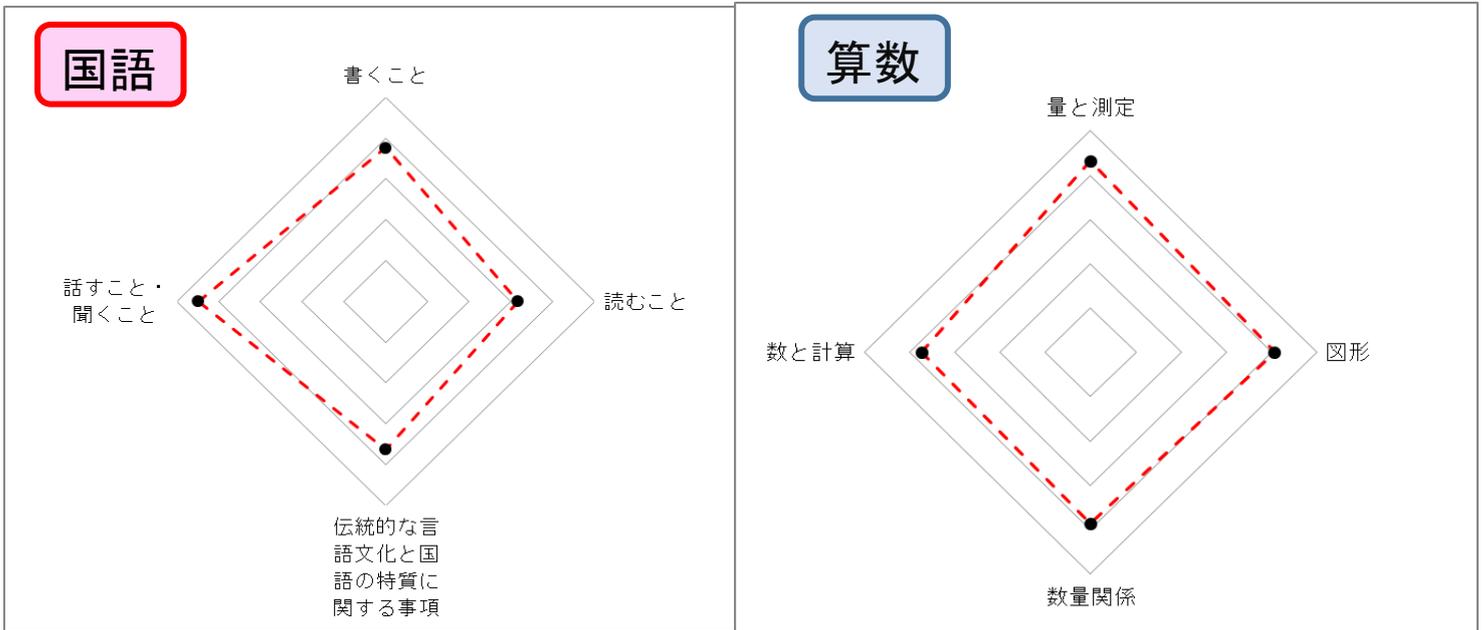


令和2年度 全国学力・学習状況調査の結果について

例年は4月に実施される「全国学力・学習状況調査」につきましては、新型コロナウイルスの影響により、今年度の全国調査は中止となりましたが、本校におきましては調査問題や児童質問紙を活用し、8月に6年生が実施いたしました。可能な範囲での分析とはなりますが、結果についてお知らせします。なお、本調査により測定できるのは子どもたちが身につけるべき学力の一部であり、教育活動の一側面に過ぎないことを踏まえながらも、これまでの指導との関連を図りつつ今後の指導に生かしていきたいと考えています。

※全国学力・学習状況調査は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。」「そのよゆうな取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」「学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。」ことを目的とし、平成19年度より行われています。



国語の平均正答率を領域別にみると、「話すこと、聞くこと領域」が特に高く、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」についても学習内容の定着がみられます。「読む」領域については昨年同様にやや苦手がみられ、継続した課題ととらえています。

算数の平均正答率は、4つのすべての領域においておよそ80%程度の正答率であり、バランスよく基礎的な学習内容の定着が図られているといえます。昨年度の課題であった「数量関係」においても成果がみられました。

児童質問紙より

「朝食を毎日食べていますか」「自分にはよいところがあると思いますか」「「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」「国語の勉強は大切だと思いますか」「算数の授業内容はよくわかりますか」「英語の学習は好きですか」などの項目は、全道の平均より高い結果でした。「人が困っているときは助けてあげますか」「人の役に立つ人間になりたいですか」などは、全道の平均よりやや低い結果となりました。

今後のとりくみ

- 正答率の低かった問題については、解き直しや関連問題提示を進め、確実な定着につなげています。
- 全学年を通じて校内研究との関連を図るなど組織的な授業改善に活かしていきます。
- 国語・算数ともに決められた字数や条件を満たして文章を要約したり、計算式の意味を筋道たてて説明したりするなどの問題にやや苦手がみられます。考えたことを順序立てて記録したり、自分の意見をまとめたり、お互いの考えを共有しながら課題解決を図ることなどを大切にした授業改善に努めます。
- 家庭学習の習慣化や充実など家庭との連携を更に取り組めます。
- 読書活動への啓発や日々のニュースへの関心を高めるなど、社会性を育む基礎となる指導や活動を日常的に取り入れます。

